

さかいで再生会議（第3回）議事概要

日時： 令和4年12月23日（金）14：00～16：00

場所： 坂出市 本庁2階大会議室

委員： 天米一志、石井秀幸、新居準也、片山将光、中橋恵美子、川滝浩嗣、大美省吾（欠席）、
中井今日子、山下健二、関口智彦、平池岳弘、尾幡季之、浦田俊一

（1）坂出駅周辺再整備基本構想について

1）中心市街地再生の基本的な考え方

【委員意見】

- ・市民、特に近隣に住む方々と一緒に坂出緩衝緑地の活用について考えていくことが非常に大事である。
- ・今、想い描いてるものが形になるのはもっと先の話だと思う。みんなが心地いいということはあり得ないと思うので、どの世代にフォーカスするかということを意識して話をするべき。
- ・中心市街地再生のコンセプトの一つとして、「歩いて楽しいまち」に加えて、「出会って楽しいまち」というように、いろんな事や物に出会って、いろんな相乗効果を生み出す、付加価値を生み出すようなまちづくりとするべき。
- ・働くまちと住むまちの両立は非常に大事なことであり、特に、子育て世代やもう少し若い世代、働く世代も一つのターゲットに住みやすいまちを考えてもらいたい。

2）実現に向けたイメージ 及び 3）実現を支える取組

【委員意見】

- ・情報発信は、SNSだけではなく、スマホへの自動通知やアプリとの連携など新しい仕組みがこれから先どんどん出てくると思うので、そういったことにも触れたほうがよい。
- ・モビリティ導入による実証実験を早い段階から行い、課題発見と、機運の醸成につなげていくようなものになればいい。
- ・駅周辺以外には大きな駐車場がないので、第2、第3の拠点のようなものとして、緩衝緑地や旧市立病院の土地など、そういった場所を駐車場として使うということも必要である。

4）居場所としての6つのエリアの特徴をふまえた方向性

【委員意見】

- ・単なるホテルというよりも、坂出のこのエリアの中に見合う宿泊施設、滞在時間を長くする機能を持つもののような考え方をしたほうがいい。
- ・エリア間の動線を考えるうえで、中心軸のような広い道は交通量も多く、必ずしも心地よく歩けるわけではないので、広い道だけでなく小道的なところを歩く楽しさをあわせて考えることも必要である。
- ・学生にとっては、線路を挟んで北側に行くことに抵抗感があり、放課後は他市町で遊んでいるという人が多いと聞くので、このエリアの中で、北に向かわせるような交流の仕掛け、若い人がいかにまちなかで過ごせるか、交流できるかというところも大事である。
- ・中心市街地の再生をけん引する場所は坂出駅前エリアであり、拠点機能や都市機能の創出とい

うことを考えていく場所である。

- ・例えば、駅を降りたら各エリアにつき統一されたおしゃれなサインが出ている、それだけでもデザインされたまちというイメージになるのではないか。また、ひとつひとつのエリアがちぐはぐにならないように計画していくことが重要である。

5) 中心市街地再生戦略

【委員意見】

- ・坂出駅前エリアと坂出緩衝緑地エリア＋西運河入船エリアの2つエリアのポテンシャルを高めるために何が必要なのかということについて議論を深めるべきである。
- ・坂出駅前エリアと坂出緩衝緑地エリア＋西運河入船エリア、そこを重点地区として中心軸として結び、人の移動、回遊を進めていき、どういった受け皿を今後整備していくかということが非常に重要である。
- ・坂出緩衝緑地エリア＋西運河入船エリアについて、水辺と緑がこれだけ近いという現状があるので、それを活かしながら魅力ある空間づくりをしていくことにより、魅力的なまちづくりを実現する一歩となる。
- ・ウォーカブルなまちづくりをするためには、歩車分離をエリアごとにしっかりと考えていくことも非常に重要であるので、実証実験を踏まえながら徐々にまちづくりをしていくことが大切である。
- ・坂出市は道路体系が分かりにくくなっているので、中心軸を設定することで、そこから横町や食べ物ゾーンが派生したり、文化交流を行う場所が生まれたりするきっかけとなるのではないか。

6) 坂出駅周辺再整備の検討（現況及び課題） 及び 7) 坂出駅周辺再整備の検討（再整備の考え方

【委員意見】

- ・分断感があると大きなポテンシャルを失ってしまうので、一体感を持った場所になることを望む。

以上